出雲弥生の森博物館で学ぶ

わたしたちのまちの歴史

縄文～奈良時代

1 おわし遺跡
2 猪目洞窟（いのめどうくつ）遺跡
3 国富中村（くにどみなかむら）古墳
4 上島（あげしま）古墳
5 山持（ざんもち）遺跡
6 鹿蹄山（しかくらやま）遺跡
7 井原（いはら）遺跡
8 矢野（やの）遺跡
9 荒神谷（こうじんだに）遺跡
10 結（むすび）遺跡
11 杉沢（すぎさわ）遺跡
12 出雲国山陰道跡（いずものくにさんいんどうあと）
13 姫原西（ひめばらにし）遺跡
14 白枝荒神（しろえだこうじん）遺跡
15 上長浜貝塚（かみながはまかいづか）
16 天神（てんじん）遺跡
17 海上（かいじょう）遺跡
18 今市大念寺（いまいちだいねんじ）古墳
19 西谷墳墓群（にしたにふんぼぐん）
20 上塩冶築山（かみえんやつきやま）古墳
21 築山（つきやま）遺跡
22 神門寺境内廃寺跡（かんどじけいだいはいじあと）
23 三田谷（さんだたに）I 遺跡
24 古志本郷（こしほんごう）遺跡
25 下古志（しもごし）遺跡
26 朝山古墳（あさやまこぼ）
27 山地（やまじ）古墳
28 奥ノ谷（おくのたに）遺跡
29 御側田（ごりょうでん）遺跡
30 京田（きょうでん）遺跡
31 矢谷（やだに）遺跡
32 経塚山（きょうづかやま）古墳群
33 尾崎横穴墓群（おざきよこあなぼぐん）

出雲市内の主な遺跡

よすみちゃん

1．出雲平野の成り立ちと縄文時代の遺跡

かつて、島根半島と中国山地の間には海が広がっていました。出雲平野ができるきっかけは、約 4000 年前に起こった三瓶山の噴火です。この時、噴出した多量の土砂が、神戸川によって運ばれたことで、次第に海は埋まり出雲平野が形成されました。

出雲市内の縄文時代の遺跡としては、築山遺跡、三田谷Ⅰ遺跡、山持遺跡、京田遺跡などが知られています。

出雲平野の成り立ち

縄文土器
（御領田遺跡㊧・奥ノ谷遺跡㊨）

京田遺跡からは地元の土器のほかに、関東や九州の影響を受けた土器が見つかっています。縄文人は壮大な交流を行っていたようです。

2．米づくりが広まった弥生時代

縄文時代には、人びとは主に狩り・漁・採集で食料を得ていましたが、弥生時代（約2300～1700年前）になると、西日本を中心に米づくりが広まります。

広大な土地と豊富な水にめぐまれた出雲平野は、米づくりに適していました。このため、平野には多くのムラが出現しました。

これらのムラからは、実際に米づくりで使われた道具のほか、弥生時代から使用が始まった青銅器や鉄器も見つかっています。

収穫した米をあつかうようす

横ヅチとキネ（海上遺跡）

クワの先２種
（海上遺跡）

米づくりが始まった
ころの壺（矢谷遺跡）

鉄のオノ（杉沢遺跡）

青銅の鏡の破片（白枝荒神遺跡）

3．ムラからクニへ、そして王の誕生

出雲平野にムラが増えると、各ムラには指導者も現れました。そして、強い力を持った指導者は、まわりのムラを従えていきました。「王」の誕生です。

西谷墳墓群には、約 1800 年前に「四隅突出型墳丘墓」という墓が次々とつくられました。これらは、全国でも最大級の大きさで、副葬品も豪華なことから、まさに「王墓」と呼べるものです。

「出雲王」は、周辺のクニにだけでなく、中国や朝鮮半島とも交流していたようです。

弥生時代の主なムラ

楯を持つ兵士（復元品/右）と楯の一部（海上遺跡/右）

ムラを囲む大きな溝
（はば 3.3m・深さ 1.4m、下古志遺跡）

出雲平野のムラのイメージ

大きな柱あと
（物見やぐらか、下古志遺跡）

西谷２号墓

豪華な副葬品

西谷３号墓から出土した土器

水銀朱とガラスのネックレス

出雲に集まるモノ

4．出雲市内の古墳

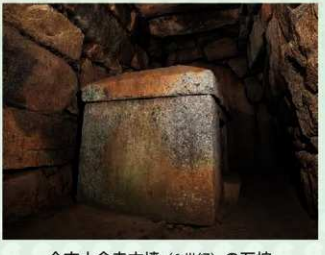
大和地方（奈良県）を中心に、前方後円墳などの古墳がつくられる時代を、古墳時代（4～6世紀ごろ）といいます。各地の豪族たちは、大きな古墳をつくることでその権力を示しました。

この時期、出雲平野や周辺でもたくさんの古墳がつくられました。大和の影響が、ここ出雲にまで及んだことがわかります。

出雲市内に残る古墳は、6世紀ごろのものが多いという特徴があります。なかでも、今市大念寺古墳は出雲最大の前方後円墳で、横穴式石室に納められた家形石棺は、日本一の大きさを誇っています。

山地古墳（4世紀）の副葬品
（市指定文化財）

西谷16号墳（5世紀）
の鉄剣と農具



今市大念寺古墳（6世紀）の石棺
（日本一大きな家形石棺）

上塩冶築山古墳（6世紀）の出土品
（重要文化財）

国富中村古墳（6世紀）の埋葬のようす
（盗掘されていない古墳は珍しい）

器の変化

4世紀

赤焼きの土師器
（下古志遺跡）

5世紀

灰色の硬い須恵器が
使われ始める（井原遺跡）

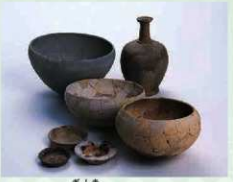
6世紀

カマドと蒸し器など
右奥の支え道具は出雲独特
（おわし遺跡・古志遺跡）

5．出雲にも伝わった仏教

6世紀に日本に伝わった仏教は、奈良時代には出雲にも広まりました。寺院の屋根に葺かれた瓦や、儀式に使われた仏具などが、市内の遺跡からも出土しています。また、仏教の風習にならい火葬をおこなった人びともいたようです。

寺の屋根を飾った瓦
（神門寺境内廃寺跡）



仏教の儀式に使われた土器
（築山遺跡ほか）

火葬した骨を入れた石の容器
（朝山古墳）

6．奈良時代のようすを今に伝える『出雲国風土記』

『出雲国風土記』は、奈良時代につくられた『風土記』のなかでも、ほぼ完全な内容で伝わる唯一のものです。この『出雲国風土記』によって、わたしたちは当時の出雲のようすを詳しく知ることができます。

『出雲国風土記』に記された山や川などの自然は、今でも見ることができ、役所や寺院などの施設は、発掘調査で発見されています。

『出雲国風土記』の最初の部分
出雲国の大きさが記されている
（出雲弥生の森博物館本）

『出雲国風土記』に記された山・川・施設など

「神名火山」（神が宿る山）
仏経山

「神門水海」神西湖

「神門郡家」（当時の役所）
古志本郷遺跡

「出雲大川」斐伊川

「黄泉の穴」（あの世の入口）
猪目洞窟遺跡

「正西道」（古代の国道）
出雲国山陰道跡

このパンフレットの作成にあたっては、次の教科書を引用し、参考にしました。

北俊夫ほか 2015『新編 新しい社会 6年上』東京書籍
黒田日出男ほか 2015『社会科 中学生の歴史』帝国書院

２ページの『出雲平野の成り立ち』は、三瓶自然館サヒメルの中村唯史氏が作成した図を改変したものです。

編集・発行　出雲弥生の森博物館
印　　刷　株式会社 報 光 社
発 行 日　平成31(2019)年3月第1刷
令和4(2022)年3月第2刷
電話 0853−25−1841
FAX 0853−21−6617
出雲弥生の森博物館
IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

2000